

ケアマネージャーを対象とした在宅医療の研修

「ふくいスーパーケアマネ育成塾」

完了報告書

平成 23 年 2 月
ふくい家庭・地域医療センター
紅谷浩之

在宅医療助成勇美記念財団 助成事業

企画意図・目的

現在、在宅医療のニーズが拡大し、在宅でできる医療の種類・手段も豊富になっている。高度な医療処置を受けながらも在宅療養が可能になった今、在宅での医療と介護の連携の必要性が増している。

ケアマネジャーは本来、介護サービスの調整が主な業務ではあるが、医療や障害の要素がより多い利用者を担当するために、持つべき知識やネットワークは医療分野にも広がっている。

在宅療養者が、病気や障害を持っていても意欲を持って前向きに生活できるように、幅広い知識とネットワーク、コミュニケーション技術を持ったケアマネジャー（スーパーケアマネと命名）を目指すための研修会を企画した。

企画上考慮したこと

単なる知識の詰め込みでは、幅広い医療分野を網羅しきれないと考え、継続的に、積極的に参加しながら、それぞれが現場で実践的に使える経験を積めるよう考慮した。また、それぞれが自ら学ぶことができるようになり、セミナー終了後も成長し続けることが可能な技術を身につけてもらいたいと考えた。

- ・ 継続型
 - 同じ参加者が、年間4回継続して参加することで、各回で学んだことを自分の現場に持ち帰り、実践し、それを次の回に持ち寄ってディスカッションすることができるよう考えた。自分の現場で利用することで「知識」を「使える技術」に昇華させることを考慮した。
- ・ 参加型
 - グループワークを中心として、参加者が積極的に参加できるような内容とした。参加者同士がそれぞれの経歴・経験を活かしてお互いの情報交換の中でスキルアップできる機会を多くつくるよう考慮した。
- ・ ICTの利用
 - 集まって講義やグループワークを行うセミナー日だけでなく、メーリングリストやブログを利用することで情報共有・ネット上のレクチャーを行うこととした。現場での悩みを共有したり、自分に必要な学びを深めたりしてもらえると期待した。

参加者

福井県内の居宅療養支援事業所及び包括支援センターに参加案内を配布し、合計38名の参加申し込みがあり、実際には37名が参加しセミナーを開始した。

参加ケアマネジャーは経験的には、ケアマネ歴1年未満の方から、包括支援センターの主任ケアマネまで幅広かった。また、医療介護元職は、以下の通りだった。

看護師 (4名)
訪問看護 (3名)
介護職 (5名)
生活相談員 (4名)
デイサービス相談員 (2名)
介護福祉士 (7名)
社会福祉士 (4名)
管理栄養士
事務職 (2名)
歯科衛生士 (2名)
ヘルパー
老人保健施設事務相談業務
施設職員

スケジュール

・ 第1回

9:10~	9:40	オリエンテーション・プレアンケート
9:40~	10:40	GW アイスブレイキング
10:50~	12:00	L1-1 在宅医療と在宅緩和ケア1
12:00~	13:00	昼食
13:00~	14:00	L1-2 在宅医療と在宅緩和ケア2
14:00~	14:50	GW2 目標設定
14:50~	15:10	おやつ
15:10~	16:30	WS1 身体×心×社会 BPSアプローチとは?
16:30~	17:00	まとめ



• 第2回

- 9:10～ 9:40 オリエンテーション・プレアンケート
- 9:40～10:40 GW3 2ヶ月の報告と目標再設定
- 10:50～12:00 WS2-1 コミュニケーション技術1～対患者・対家族
- 12:00～12:50 昼食+ランチョンセミナー ブログ・MLについて
- 12:50～13:40 WS2-2 コミュニケーション技術2～共感する！～
- 13:40～14:50 L2 療養通所介護の現状
- 15:00～15:20 おやつ
- 15:20～16:00 WS2-3 コミュニケーション技術3～対ドクター～
- 16:00～17:00 まとめ



• 第3回

- 9:10～ 9:40 オリエンテーション・アンケート
- 9:40～10:40 L3 人を幸せにするリハビリ
- 10:50～11:20 WS3-1 ほっとリハビリシステムズ見学
- 11:20～12:10 WS3-2 在宅療養に取り入れるリハビリ
- 12:10～13:00 昼食+ランチョンセミナー 在宅サポーターズチャット研究
- 13:00～13:40 GW4 簡易懸濁法やってみよう！
- 13:40～14:10 L4 在宅での栄養について
- 14:10～14:50 GW5 栄養剤・食品、固形化やってみよう！食べてみよう！
- 15:00～15:20 おやつ
- 15:20～16:20 GW6 4ヶ月のまとめ
- 16:20～17:00 まとめ



・ 第4回

- 9:00～10:00 ポートフォリオ個別相談会
- 10:00～10:10 オリエンテーション
- 10:10～10:40 L5 礼文島で見た地域ケア
- 10:50～12:10 GW7-1 ポートフォリオ発表1
- 12:10～13:00 昼食+ランチョンセミナー 在宅医療について
- 13:00～14:10 GW7-2 ポートフォリオ発表2
- 14:10～14:50 GW8 スーパーケアマネ育成塾2011
- 15:00～16:30 L6 中村伸一先生講演+おやつ
- 16:30～17:00 スーパーケアマネ認定式
- 17:30～ 大懇親会

結果

一部の参加者が、都合ですべての回に参加できなかった。すべての回を通して参加したのは30名だった。

セミナー内容について（特に好評だったもの）

BPS アプローチ：新しいカンファレンスの進め方が参考になったとの意見が多かった。ケアマネ同士の勉強会で、同内容のセミナーを取り入れる参加者もあった。コミュニケーション：患者家族、医師へのコミュニケーションのコツや技術についてのワークショップでは、実践を通して体感してもらった。

簡易懸濁法：グループワークで、実際に薬剤師の指導の下、薬やお湯を使用して実践した。実際に薬や栄養剤に触れることの少ないケアマネにとって、良い経験になっていた。

講演会について

毎回のゲスト講演会は、いずれも好評だった。

特に、施設見学を兼ねた講演では、普段見ることのできない施設内も見学できたため、良い経験になったようだった。

ポートフォリオについて

セミナーに参加して自分が成長したことを実感してもらうために、ポートフォリオ作成を毎回少しずつ進めた。全員が初めての経験だったが、最終日のポートフォリオ発表会では全員が自分の成長を発表することができ、自信に繋がっていた。

メーリングリストについて

全部で 159 通のメールのやりとりを行った。実際の事例についての意見交換や、スタッフ（医師、社会福祉士など）からのアドバイスのやりとりがあった。

ただ、1 回の書き込みで終わってしまった参加者もあり、十分に活用しきれなかった感もある。参加者へのアンケートでは、「見ていてもなかなかかきこめなかった」「忙しくてメールチェック自体がなかなかできなかった」などの意見もあった。

メールを使ったことがない参加者もあり、使用法の説明などをスタッフが行った。しかし、1 名は最後までメールに参加できなかった。

ブログについて

スタッフ（医師、社会福祉士など）からの認知症、在宅医療の制度、グリーフケアなどについてのレクチャーを行った。印刷して教科書として利用してくれた参加者もいたが、メール同様なかなかチェックできない参加者もあった。

まとめ

8 ヶ月にわたり複数回のセミナーを行うことで、継続性を持って研修できた。また、元職も経験も異なる参加者がグループワークを行うことで、講師からの知識の伝達にとどまらず、お互いに経験を共有する形になり学習の相乗効果が生まれていた。

最終アンケートからは、「今まで、医療的な要素が多い利用者は、つい敬遠しがちだったが前向きに関わろうという気持ちになれた」などの意見があった。

スタッフや演者と参加者の交流が持てたことで、セミナーの場ではなく、業務の現場でも相談や診療がスムーズにいったという事例も聞かれ、知識・技術だけでなく人と人とのつながりをつくるセミナーとなった。

反省点

8 ヶ月で 4 回、毎回休日に朝 9 時から午後 5 時までのセミナーは、仕事も忙しく家庭でも忙しい参加者にとっては負担になる部分もあった。欠席せざるを得ない参加者もあったことから、開催回数や日程に配慮が必要であった。

メール、ブログについては、想定以上に、使用経験がない参加者が多く、開始時に電話問い合わせや、使用方法の説明に時間がとられた。メーリングリストへの書き込みは、気持ち的な躊躇と技術的な困難さもあり、参加者同士のみでやりとりが頻繁に行われることはあまりなかった（スタッフが進行役にならないとすすまなかった）。

ポータルサイトに関しては、個別に相談にのる時間がとれなかったこともあり、一部の参加者にとってはプレッシャーになってしまっていた。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による



<申請者の感想>

ケアマネジャーは忙しい中でも、自分の知識や経験をブラッシュアップしたいと思っている方が多いことがわかった。スタッフ（医師ら）の在宅ケアを盛り上げたい、という気持ちともリンクして、お互いにとってもよい刺激になった。

単回のセミナーとは異なり、知識や技術を持ち帰って自分の現場で考えたり使ったりして、次の回にそれを持ち寄り共有することができ、複数回行うことは非常に意味があることがわかった。

メーリングリストやブログはまだまだ活用する方法があったように感じる。振り返ってみると、スタッフからの書き込みをもっと充実させれば参加者の活用も広がったのではないかと思う。

時間をかけて、仕掛け（メールやブログなど）を利用して、それぞれの目標とペースで成長していってもらおう、という今回のセミナーのすすめ方は、準備はとても大変だがとても有意義な方法であることがわかった。今後も様々なセミナーに応用できると感じている。